

科目名	音楽ビジネス・マネージメント 1							年度	2024
英語科目名	Music Business Management-I							学期	前期
学科・学年	コンサート・イベント科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	志塚昌紀・矢野正樹			教員の実務経験	有	実務経験の職種		イベント企画制作	
【科目の目的】									
音楽業界に就職する祭に必要なとなる業界知識やビジネスマナーに関わることを学ぶ。具体的には、以下の2点を科目の目的として設定している。									
①【プレゼンテーション】より実践的なコミュニケーションの能力として、就職活動やビジネスの現場で扱えるようなプレゼンテーションのノウハウやスキルの取得。									
②【業界基礎知識】エンターテインメント業界の現状を理解し、実践的な知識や伝える力の取得。									
【科目の概要】									
本科目では、ビジネス・マネージメントをビジネスパーソンとして社会に出て行く上で必要となるジェネリックスキルとして理解し、音楽やイベント業界をはじめとした多様な仕事の現場で通用する社会人基礎力を身につけていく。より実践的なビジネスマネジメントスキルとして、「前に踏み出す力（アクション）」、「考えぬく力（シンキング）」、「協力する力（チームワーク）」の向上を目指し、通常の講義に加え、受講生同士による相互の学び合いを重視し、演習も交えた内容となっている。									
【到達目標】									
A：前に踏み出す力（アクション）によって、積極性と実行力が備わっている。									
B：考え抜く力（シンキング）によって、深い分析と論理性、創造性が身についている。									
C：協力する力（チームワーク）によって、共感と協調を理解している。									
D：発表する力（プレゼンテーション）によって、説得する知識と表現する力を持っている。									
E：エンタメ業界の基本を理解し、データ分析、他者に伝えることができる基礎的能力が身についている。									
【授業の注意点】									
時間意識を強く持ち、授業開始時には着席をして、ノートが開かれシャープペンの芯が出ている状態でスタートする。分からない事柄や言葉は記録し、その日のうちに解消する。自分の意見、発想、アイデンティティを持つには経験と時間、数多くの引き出しを得ることが重要である。そのためには、よく考えるということ意識して授業に取り組むことが大切である。各自の知的好奇心を持って、自分なりの考察を試みる事が重要である。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	自発的に意見・質問を提出。他の学生の学びにも良い影響を与える。	授業で意欲的に取り組み、定期的に質問やコメントをする。	基本的な参加はするが、自発的な発言は限定的。	消極的で、教師の促しや指示がないと発言が少ない。	ほとんど参加せず、教師の促しにも反応に限られる。				
到達目標 B	問題に対して独創的な解決策を提案し、論理性を伴う深い思考を行う。	論理的に考え、合理的な解答を見つける。	基本的な問題解決は可能だが、複雑な課題では苦勞する。	単純な問題解決はできるが、深い思考は難しい。	基本的な問題解決にも苦勞し、考える深さが不足している。				
到達目標 C	自発的に行動し、積極的に協力。困難な課題でも解決策を探索する。	自らタスクを引き受け、共同での課題解決に積極的に貢献。	指示された役割を遂行し、協力するが、自発的な行動は限定的。	貢献が一定程度にとどまり、新しい行動を起こすことが少ない。サポートや促しに依存。	消極的で、自発的な行動を起こすことがほとんどない。他からの促しや指示が必要。				
到達目標 D	明確かつ効果的にアイデアを伝え、聴衆を引き付ける。	考えをはっきりと伝え、聴衆の注意を引くことがある。	基本的なプレゼンテーションはできるが、時に不明瞭になる。	アイデアの伝達に苦勞し、表現が不明確なことがある。	自分の考えを伝えるのが困難で、理解されにくい。				
到達目標 E	データを活用して業界の分析ができ聴衆に伝えることができる。	データを活用して業界の分析をすることができる。	業界の現状を多角的に理解することができる。	業界の現状を一元的に理解することができる。	業界の現状理解ができていない				
【教科書】									
必要に応じて資料を配布する。毎回前回講義のまとめを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									
授業目的を反映した試験により点数により評価をする。単元時に実施する課題の内容、取り組み方、丁寧な表記、正確な文字を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		音楽ビジネス・マネージメント 1			年度	2024
英語表記					学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	前期授業オリエンテーション	音楽ビジネス・マネージメントをどう学ぶのか	1 授業の概要	授業の内容、受講の方法が理解できている	1	
			2 プレゼンとは	プレゼンテーションスキルが理解できている		
			3 アクティブラーニング	アプリを使って意見交換し授業参加できる		
2	話すスキル・伝えるスキル	正確な言葉を選んで話して伝えるスキルを身につける	1 話すスキル	正確に言葉を選ぶ方法が身についている	1	
			2 伝えるスキル	言葉の伝え方について理解ができている		
			3 ペアワーク	コミュニケーションの難しさ、大切さを理解できている		
3	イベント	イベントの制作について学ぶ	1 イベントの定義	イベントの定義を理解している	1	
			2 イベントの基本要素	イベントの基本要素を理解している		
			3 イベントの効果	イベントの効果を理解している		
4	聴くスキル・関わるスキル	正確に情報を受け取り、温かい受入れ方を身につける	1 聴くスキル	正確に情報を受け取るスキルを身につけている	1	
			2 関わるスキル	相手との関わり方について理解できている		
			3 ペアワーク	相手を受容する態度を理解できている		
5	SWOT分析	SWOT分析を使って分析する	1 分析の必要性	分析の必要性を理解している	1	
			2 SWOT分析	SWOT分析を理解している		
			3	SWOT分析を実行できる		
6	構成スキル・論理的スキル	論理的な話の組み立て方を身につける	1 構成スキル	話の「構成」について理解できている	1	
			2 論理的スキル	3部構成の話の組み立て方について理解できている		
			3 ペアワーク	論理的に話を組み立てる方法が身についている		
7	SWOTクロス分析	SWOTクロス分析を使って分析する	1 SWOT分析	自己の分析ができる	1	
			2 SWOTクロス分析	SWOTクロス分析を理解できる		
			3	SWOTクロス分析を実行できる		
8	見せるスキル・声と間	プレゼンテーションの見せ方や魅せ方を身につける	1 見せるスキル	プレゼンスライドの見せ方が身についている	1	
			2 声と間	声や間について理解できている		
			3 ペアワーク	印象に残る表現について理解できている		
9	正しい情報伝達	伝えるべき情報の選択ができる	1 情報伝達	情報伝達の重要性を理解している	2	
			2 グループワーク	正しい情報伝達を実行できる		
			3	難度の高い情報を伝達することができる		
10	姿勢と視線・アガリの克服	堂々とした態度をもったプレゼン方法を身につける	1 姿勢と視線	視線と姿勢について理解できている	1	
			2 アガリの克服	アガった際の解決策が理解できている		
			3 ペアワーク	アガっても失敗しない方法を理解できている		
11	業界用語	業界用語を覚える	1	業界用語を理解している	1	
			2 業界用語の理解	業界用語の使用時がわかる		
			3	業界用語を使用できる		
12	ゲストスピーカー	自分のキャリアデザインについて考えを拡げる	1 ゲスト講演	音楽ビジネスの最前線を理解できている	2	
			2 トークセッション	音楽ビジネスの多様性を理解できている		
			3 質疑応答	自身のキャリアへの繋がりを意識できている		
13	前期授業まとめ	前期授業を振り返り、試験に向けて復習ポイントを確認	1 試験概要	前期試験について理解できている	2	
			2 プレゼンテーション	前期授業の内容が復習できている		
			3 業界基礎知識	前期授業の内容が復習できている		
14	自己認識	心理テスト等で自分の状態を認識する	1 POMSテスト	POMSテストの内容を理解している	2	
			2	POMSテストを実行し点数化できる		
			3 ストレスマネジメント	ストレスへの対処法を理解できる		
15	プレゼンテーション大会（個人）	プレゼンテーションの実施を通じて、学んだこと実践	1 プレゼン実践	学んだことを生かし、プレゼンの実践ができる	2	
			2 プレゼン評価	プレゼンテーションを聞き、評価できる		
			3 プレゼン講評	講評を真摯に受け止めることができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等